YAMAHA

MP3 MIXING RECORDER SoundSketcher

SH-01

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「〜しないでください」という禁止を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ **警告**	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ **注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源アダプター

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

電源アダプターを使用する場合は、指定のもの(PA-3C)を使用する。
(異なった電源アダプターを使用すると)故障、発熱、火災などの原因になります。

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げのお店または巻末のサービス拠点にご依頼ください。

水に注意

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。
感電や火災、または故障の原因になります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

異常に気づいたら

電源アダプターコード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。(乾電池を使用している場合は、乾電池を本体から抜く。)
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げのお店または巻末のサービス拠点に点検をご依頼ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。
電源アダプターをご使用の場合、電源スイッチを切った状態(電源スイッチが「STANDBY」の状態)でも微電流が流れています。
この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

⚠ 注意

電源/電源アダプター

電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

乾電池

乾電池はすべて+/−の極性表示通りに正しく入れる。
正しく入れていない場合、発熱、火災、液漏れのおそれがあります。

乾電池は一度に全部を交換する。乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。また、種類の異なったもの(アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品の異なるものなど)を一緒に使用しない。
発熱、火災、液漏れの原因になります。

乾電池を分解したり、火の中に入れたりしない。
乾電池の中のものが目に入ると危険です。また、火の中に入れると破裂するおそれがあります。

使い切りタイプの乾電池は、充電しない。
充電すると液漏れや破裂の原因になります。

長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池を本体から抜いておく。
乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。

乾電池は子供の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。

乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。万一液が目や口に入ったり皮膚に付いたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師に相談する。
失明や化学やけどなどのおそれがあります。

設置

直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
SH-01本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。

接続

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷の原因になることがあります。

手入れ

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルなどが変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

使用時の注意

カードスロットやパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げのお店または巻末のサービス拠点に点検をご依頼ください。

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルなどが変色/変質する原因になります。

本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

データの保存

メモリーカード(スマートメディア)のバックアップ

保存したメモリーカード(スマートメディア)の万一の事故に備えて、大切なデータはコンピューターへバックアップを取っておかれることをおすすめします。

ごあいさつ

このたびは、ヤマハサウンドスケッチャーSH-01をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
SH-01は、内蔵マイク、外部マイク、楽器、CDプレーヤー、MDプレーヤーなど、ソースを選ばずに手軽に録音/再生ができる、メモリーカード(スマートメディア)をメディアとしたユニットです。ミックス録音機能、DSPエフェクト、チューニング機能、リピート再生機能などを装備し、さまざまにサウンドを操ることができます。さらに、USB端子を装備し、コンピューターとの連携も可能です。

SH-01の優れた機能を使いこなし、末永くご愛用いただくために、本書を活用いただきますよう、ご案内申し上げます。また、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備え、本書を大切に保管いただきますよう、お願い申し上げます。

付属品について (国内モデル)

SH-01の付属品をご確認ください。

- CD-ROM*1
- 電源アダプター(PA-3C)
- USBケーブル
- メモリーカード(スマートメディア™)*2
- 取扱説明書(本書)
- 保証書、ユーザー登録カード

*1 CD-ROMについては36ページをご参照ください。
*2 スマートメディアは株式会社東芝の商標です。

ご注意
- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- 本取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- 本取扱説明書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。

- Sound Sketcher is powered by PortalPlayer, Inc.
- PortalPlayer and the PortalPlayer logo are trademarks owned by PortalPlayer, Inc.
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson multimedia.

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬ所で迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。
ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

目次

SH-01でできること 6
各部の名称と機能 8
電源の準備 11
電源アダプターをご使用になる場合 11
乾電池をご使用になる場合 11
メモリーカード(スマートメディア)について 12
接続について 14
楽器/マイクの接続 14
CD/MDプレーヤーの接続 15
ヘッドフォン/外部アンプ&スピーカーの接続 15
コンピューターとの接続 16

SH-01を使ってみよう

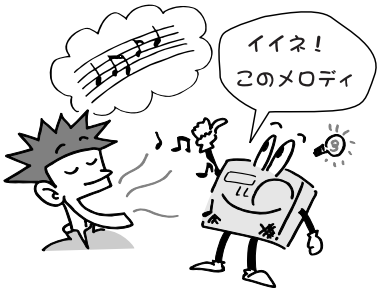
内蔵マイクを使って録音してみよう 17
ミックス録音をしてみよう 20
チューナー機能の使い方 24
CD/MDの録音 29
マスタリングの手順 30
ファイルの管理 31
ファイルのバックアップ 31
ファイル名の変更(リネーム) 32
任意のファイルの削除 32
全ファイルの削除 33
メモリーカードのフォーマット 34
コンピューターとのファイル交換 35
SH-01で扱えるファイル 35
通信でできること 35
付属CD-ROMの内容 36
コンピューターとのデータ移動(データファイラー) 37
システムの設定 38
録音モード 38
コントラスト調整 39
エフェクトセットアップ 40

仕様 41
エフェクトタイプリスト 42
エラーメッセージ 46
故障かな?と思ったら 47
ユーザーサポートのご案内 48
保証とアフターサービス 48

SH-01でできること

どこでも手軽に録音

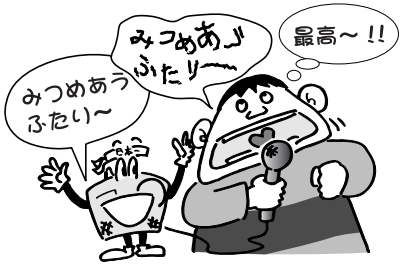
いいメロディが浮かんだらSH-01にソク録音。内蔵マイクに向かって歌っちゃおう。ステレオデジタルのグッドサウンドで録音されるよ。



SH-01はギターだってキーボードだって直接つなげる。カッコイイフレーズを思いついたら、すぐにSH-01でゲットだ！頼れるメトロノーム機能、チューナー機能も装備してるぞ！

エフェクトがさらにその気にさせる

プロ音響で定評のあるヤマハDSPを内蔵。リバーブ、コーラス、ディレイ、イコライザー.....いろいろなエフェクトがイマジネーションを刺激するぞ。



ミックス録音で多重録音

SH-01は録音済みの音にミックスして録音することができる！ギターのストロークに合わせてリードプレイを録音したり、ひとりアカペラ4重奏だってできる。失敗してもUNDOボタンで『今のはなかったこと』にしてやり直せるし。

CD・MDのサウンドも操ろう

CDやMDの音を録音することだってできる。
CDやMDに合わせてデュエットしたりギターで共演したり、ミックス録音だってできるんだ！

・市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

コンピューターとのコンビネーション

SH-01は、録音したデータをメモリーカードにMP3（またはWAV）ファイルで保存するしくみ。一般的なサウンドファイルだから、コンピューターでもそのまま扱える。『CDの音楽をバックにメッセージを録音した声の寄せ書き』ファイルをメールに添付するなんてことも簡単。

コンピューターの接続だって簡単だ。
USBケーブルでSH-01のUSB端子とつなぐだけ。
SH-01で作ったサウンドファイルを整理したり、サイトからダウンロードしたMP3ファイルにSH-01でミックス録音したり、使い方はいろいろ。

ひとりでこっそり！みんなでガンガン！

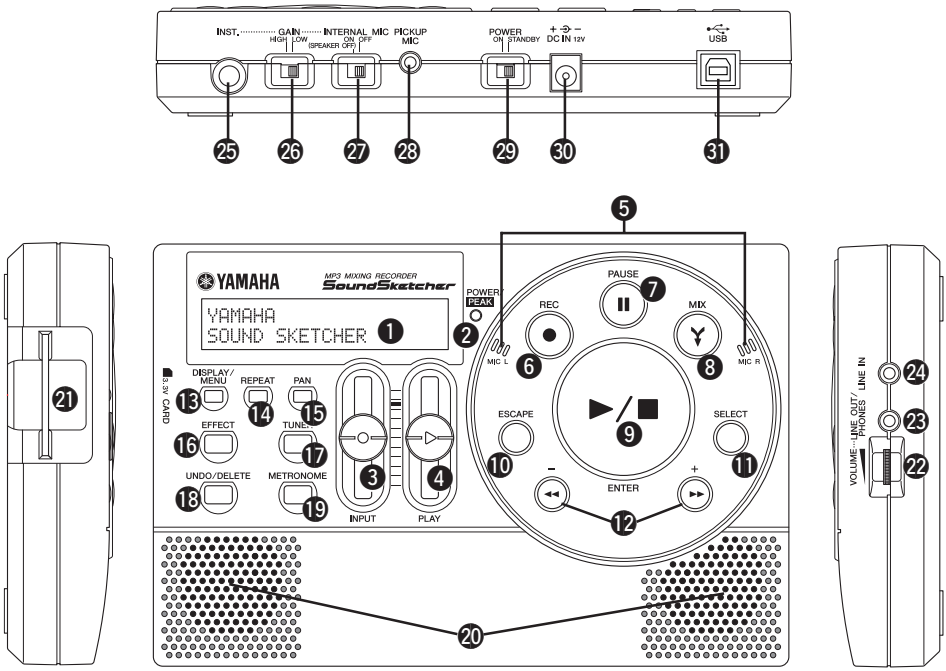
普段は内蔵のステレオスピーカーで再生。

公共の場所や夜、または人に聞かれたくないときは、ヘッドフォンで。

みんなに聞かせたいときは、ギターアンプやPAシステムで。

小さい音量でも大きな音量でもSH-01のデジタルサウンドはGoo-ood！

各部の名称と機能



❶ ディスプレイ

SH-01のさまざまなデータや情報を表示します。コントラストの調整もできます。（→39ページ）

❷ POWER/PEAKランプ

SH-01の電源が“ON”になっているとき（SH-01が動作中）、緑色に点灯します。
入力ソースのレベルが大きすぎる場合、赤色に点灯します。
電池動作時は、バッテリーレベルが低下すると、緑色で点滅します。

❸ INPUTボリューム

入力ソースの音量レベルを調整します。
ファイル名入力時は、キャラクターを選択します。（→32ページ）

❹ PLAYボリューム

再生時の音量レベル、ミックス録音時の元ファイルの音量レベルを調整します。ファイル名入力時は、キャラクターを選択します。（→32ページ）

❺ 内蔵マイク（MIC L, MIC R）

内蔵のステレオマイクです。
リアパネルのINTERNAL MICスイッチ㉗でON/OFFを、GAINスイッチ㉖でゲインを切り替えます。（→14ページ）

❻ RECキー（●）

新規録音の際、このキーを押すと録音待機状態になります。

❼ PAUSEキー（❚❚）

再生時にこのキーを押すと一時停止します。

❽ MIX(ミックス)キー(¥)
ミックス録音の際、このキーを押すと録音待機状態になります。

❾ ENTER(エンター)キー(▶/■)
録音・再生のスタート/ストップをこのキーで行ないます。また、メニュー選択や各種設定の際、このキーを押して実行(確定)します。

❿ ESCAPE(エスケープ)キー
各種設定を中断する場合、このキーを押すと1つ前の画面に戻ります。

⓫ SELECT(セレクト)キー
各種設定で複数の項目がある場合、このキーを押して項目を切り替えます。

⓬ −(マイナス)/+(プラス)キー(◀◀/▶▶)
停止時または再生時に押すと曲のスキップができます。長押しすると巻き戻し/早送りができます。
各種設定時には、設定値の切り替えや処理の実行/キャンセルを行ないます。

⓭ DISPLAY(ディスプレイ)/MENU(メニュー)キー
このキーを押すごとにディスプレイの表示モードが切り替わります。(→25ページ)
長押しするとシステム設定メニュー画面が表示されます。

⓮ REPEAT(リピート)キー
ソング(ファイル)をリピート再生します。リピート再生には、1曲をくり返し再生するシングルリピートと設定した区間をくり返し再生するABリピートがあります。
(→26ページ)

⓯ PAN(パン)キー
ステレオ音量バランスを調整します。
(→21ページ)

⓰ EFFECT(エフェクト)キー
エフェクトの設定を行ないます。
(→20ページ)

⓱ TUNER(チューナー)キー
チューナー機能を動作させます。
(→24ページ)

⓲ UNDO(アンドゥ)/DELETE(デリート)キー
直前のメモリーの変更操作の取り消し(アンドゥ)を行ないます。(→19ページ)
長押しすると、現在選択されているファイルを削除します。(→32ページ)

⓳ METRONOME(メトロノーム)キー
メトロノームのON/OFF切り替えや、メトロノームのテンポや動作モードを設定します。(→22ページ)

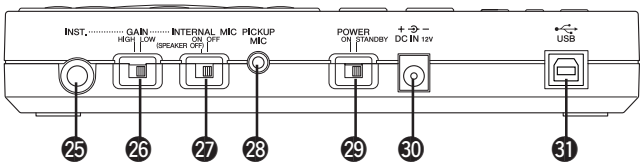
⓴ 内蔵スピーカー
内蔵のステレオスピーカーです。
＊INTERNAL MICスイッチ㉗をONにしている場合およびLINE OUT/PHONES端子㉓にプラグを接続している場合は、内蔵スピーカーは鳴りません。

㉑ カードスロット(3.3V CARD)
メモリーカード(スマートメディア™)を挿入するスロットです。(→12ページ)

㉒ VOLUME(ボリューム)
SH-01の内蔵スピーカーの音量およびLINE OUT/PHONES端子から出力される音量を調節します。

㉓ LINE OUT(ラインアウト)/PHONES(フォーンズ)端子
外部スピーカーやミキサーなどに音声信号を出力したり、ヘッドフォンを接続する端子(ステレオミニ)です。

㉔ LINE IN(ライン イン)端子
CDプレーヤーやMDプレーヤーなどのライン機器を接続する端子(ステレオミニ)です。



㉕ INST.端子（インスト）

ギターなどの楽器やボーカルマイクを接続する端子（モノラル標準）です。楽器の出力レベルに合わせてGAINスイッチ㉖でゲインを切り替えます。（→14ページ）

㉖ GAINスイッチ（HIGH/LOW）（ゲイン）

内蔵マイクおよびINST.端子㉕のゲインを切り替えます。

㉗ INTERNAL MICスイッチ（ON/OFF）（インターナル マイク）

内蔵マイクのON/OFFを切り替えます。

＊INTERNAL MICスイッチ㉗をONにしている場合およびLINE OUT/PHONES端子㉓にプラグを接続している場合は、内蔵スピーカーは鳴りません。

㉘ PICKUP MIC端子（ピックアップ マイク）

コンデンサーマイク（DC2V）用の接続端子（モノラルミニ）です。
この端子から接続プラグ経由で動作電圧DC2Vの電源を供給します。

ヤマハ管楽器用ピックアップマイクMC7を、この端子に直接接続してお使いいただくことができます。

㉙ POWERスイッチ（ON/STANDBY）（パワー）

SH-01の電源スイッチです。

㉚ DC IN（電源アダプター接続）端子（ディーシーイン）

付属の電源アダプター（PA-3C）を使用する場合に接続する端子です。

㉛ USB入力端子（ユーエスビー）

SH-01とコンピューターを接続する端子です。（→16ページ）

電源の準備

SH-01は電源として、付属の電源アダプター(PA-3C)または単3乾電池6本をご利用いただけますが、基本的には電源アダプターをご使用になることをおすすめします。

電源アダプターをご使用になる場合

1 SH-01のPOWERスイッチを“STANDBY”にし、電源アダプターのDCプラグを、リアパネルのDC IN端子に確実に差し込みます。

2 電源アダプターのACプラグを、コンセント(AC100V)に差し込みます。

* 乾電池が入っている状態で電源アダプターを接続すると、電源は自動的にアダプター側から供給されるようになります。乾電池の液漏れ防止のため、電源アダプターでご使用になる場合は、乾電池を本体から抜いておくことをおすすめします。
* 電源アダプターは、必ず付属のPA-3Cをお使いください。他の電源アダプターを使用した場合、故障や発熱などの原因となり、大変危険です。
* 電源は、必ずAC100Vを使用してください。また、**付属の電源アダプターPA-3Cは、日本国以外では使用することはできません。**

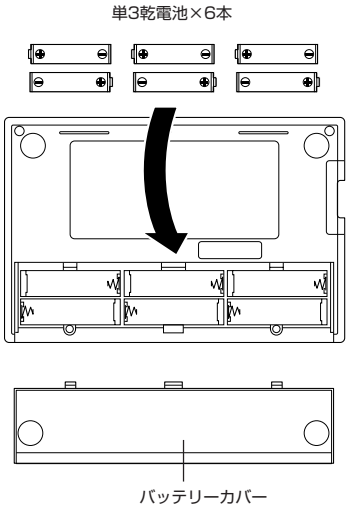
乾電池をご使用になる場合

1 SH-01のPOWERスイッチをSTANDBYにし、本体裏側のバッテリーカバーを取り外します。

2 イラストを参考に、乾電池の+/−を間違えないように新しい乾電池を入れます。

3 バッテリーカバーを閉めます。

* 乾電池は**アルカリ乾電池**(単3)をお使いください。マンガン電池をご使用になった場合、乾電池によっては極端に電池寿命が短くなることがあります。
* 乾電池が消耗して寿命が近づいてくると、POWER/PEAKランプが緑色で高速点滅します。さらに消耗するとディスプレイに“BATTERY LOW”というメッセージが表示されます。すぐに乾電池を6本とも新しいものに交換してください。
* 乾電池は新しいものと古いもの、種類の違うもの(アルカリとマンガンなど)、メーカーの違うものを一緒に使用しないでください。



メモリーカード(スマートメディア)について

■ メモリーカード(スマートメディア)の取り扱いについて

メモリーカードをご使用いただく場合は、以下のことをお守りください。

● ご利用いただけるメモリーカードの種類

この商品では3.3V(3V)のメモリーカード(スマートメディア)がご使用になれます。5Vのメモリーカードはご使用になれません。

● カードのメモリー容量

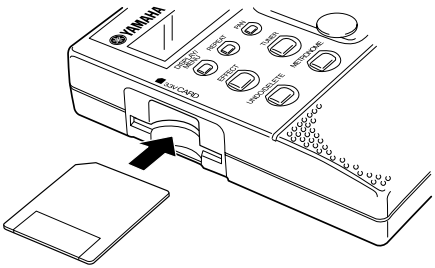
メモリーカードは、16MB/32MB/64MB/128MBの4種類がご使用になれます。
(→38ページ)

● メモリーカードの挿入/取り出し

メモリーカードの入れかた

メモリーカードの端子部(金色)を下向きにして、メモリーカードスロット(挿入口)にしっかりとていねいに奥まで差し込みます。

＊ メモリーカードの向き(上下、前後)を間違えないようご注意ください。
＊ メモリーカードスロットにゴミや異物が入らないようにご注意ください。誤動作や故障の原因となります。



メモリーカードの取り出し

メモリーカードの取り出しは、SH-01本体がメモリーカードにアクセス中*でないことを確認した上で、カードを取り出して(引き抜いて)ください。

＊ アクセス中：録音、再生、セーブ、ロード、フォーマット、デリート、リネームなどの作業中を指します。また、電源が入っている状態でメモリーカードを挿入したときも、SH-01本体がメディアの種類を確認するために自動的にアクセス中になります。
SH-01では、カードにアクセス中はディスプレイに“DO NOT REMOVE CARD”とメッセージが表示されます。
＊ メモリーカードを抜き差しした際に、SH-01がメモリーカードを認識できなくなることがあります。その場合は、電源を入れ直してください(リセット)。

アクセス中にメモリーカードを取り出したり、SH-01本体の電源を切ったりしないでください。メモリーカードがこわれたり、SH-01本体/メモリーカードのデータがこわれたりするおそれがあります。

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードはそのままではご使用になれない場合があります。必ずSH-01本体でフォーマット(初期化)してからご使用ください。
(→34ページ)
なお、フォーマットを行なうとカード内のすべてのデータは消去されます。あらかじめ、データの有無をご確認ください。

＊ この機器でフォーマットしたメモリーカードは他の機器で使用できなくなる場合があります。

● メモリーカードについてのご注意

メモリーカードの取り扱いと保管

・静電気によってメモリーカードのデータが失われる場合があります。メモリーカードに触れるときは、あらかじめ身近な金属(アルミサッシや金属のドアノブなど)に触れて静電気を取り除いてください。

・長時間使用しないときは、メモリーカードを挿入口から取り出して、湿気やほこりの少ないところに保管してください。特に乾電池でご使用の場合は、電池の消耗が速くなるのでご注意ください。

・直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところに置かないでください。

・落としたり、物をのせたり、折り曲げたりしないでください。

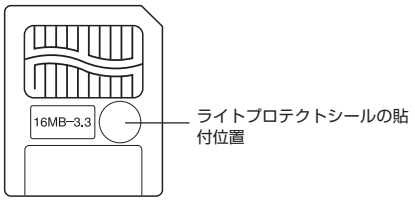
・メモリーカードの端子部(金色)に直接触れたり金属を当てたりしないでください。

・磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。

・メモリーカードにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

誤消去防止

メモリーカードは、メモリーカードのパッケージに入っているライトプロテクトシールを指定の場所(○マークの中)に貼ることによって、誤ってデータを消してしまわないようにすることができます。大切なデータが入っているメモリーカードは、ライトプロテクトシールを貼って、書き込みができないようにしてください。逆に、セーブする場合などは、ご使用の前にメモリーカードのライトプロテクトシールがはがされていることをご確認ください。
1度はがしたシールは、再使用しないでください。



データのバックアップ

メモリーカードの万一の事故に備えて、大切なデータはコンピューターへバックアップを取っておかれることをおすすめします。

接続について

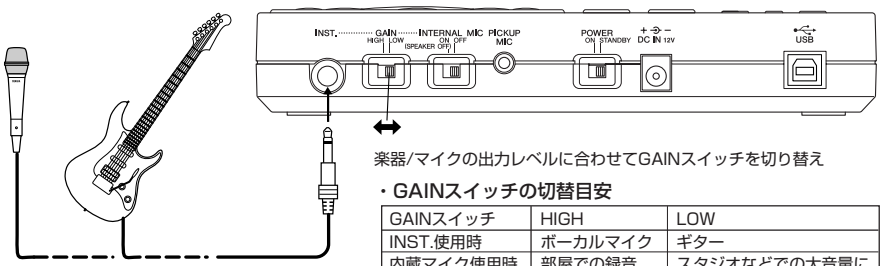
- 接続は、必ずすべての機器の電源を切った状態で行なってください。
- 接続が完了したら、SH-01のVOLUMEおよび再生装置(外部アンプ&スピーカーなど)のボリュームを下げてから、SH-01→再生装置の順番で電源を入れます。また電源を切る場合は、逆の順番で行ないます。

楽器/マイクの接続

● 楽器やボーカルマイクの接続

エレキギター、エレアコやボーカルマイク(ダイナミックタイプ)などは、リアパネルのINST.端子(モノラル標準)に接続します。
楽器/マイクの出力レベルに合わせて、リアパネルのGAINスイッチ(HIGH/LOW)を切り替えてください。
楽器/マイクの入力レベルは、トップパネルのINPUTボリュームで調節します。

＊内蔵マイクを使用しない場合は、INTERNAL MICスイッチを“OFF”にしましょう。



楽器/マイクの出力レベルに合わせてGAINスイッチを切り替え

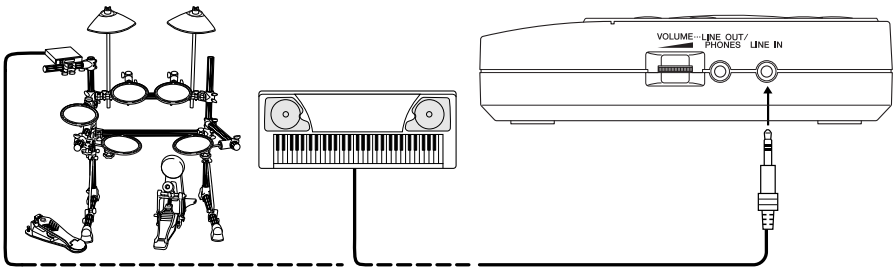
・GAINスイッチの切替目安

GAINスイッチ	HIGH	LOW
INST.使用時	ボーカルマイク	ギター
内蔵マイク使用時	部屋での録音	スタジオなどでの大音量による録音

● ラインレベル楽器の接続

キーボード、シンセサイザー、エレクトリックドラムなどのラインレベル出力の楽器は、サイドパネルのLINE IN端子(ステレオミニ)に接続します。
楽器の入力レベルは、SH-01トップパネルのINPUTボリュームで調節します。

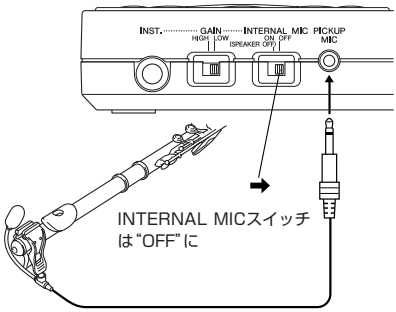
＊内蔵マイクを使用しない場合は、INTERNAL MICスイッチを“OFF”にしましょう。



● コンデンサーマイクの接続

ヤマハ管楽器用ピックアップマイクMC7などのコンデンサーマイクを接続することもできます。マイクのプラグ(モノラルミニ)をリアパネルのPICKUP MIC端子に接続します。
マイクの入力レベルは、トップパネルのINPUTボリュームで調節します。

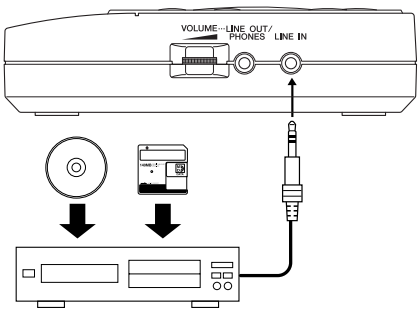
＊内蔵マイクを使用しない場合は、INTERNAL MICスイッチを“OFF”にしましょう。



CD/MDプレーヤーの接続

CDプレーヤーやMDプレーヤーなどの出力端子とSH-01サイドパネルのLINE IN端子(ステレオミニ)とを接続して、CDやMDをSH-01のソースにすることもできます。
ケーブルはそれぞれの端子の規格に合ったものをお使いください。
CD/MDの入力レベルは、トップパネルのINPUTボリュームで調節します。

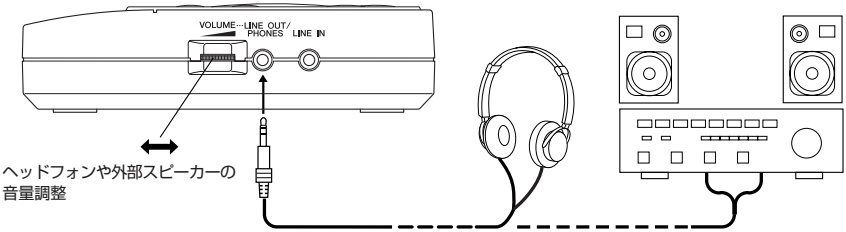
＊内蔵マイクを使用しない場合は、INTERNAL MICスイッチを“OFF”にしましょう。



ヘッドフォン/外部アンプ&スピーカーの接続

サイドパネルのLINE OUT/PHONES端子(ステレオミニ)は外部出力用の端子です。
ヘッドフォンや、外部アンプ&スピーカーなどのオーディオ再生装置を接続してSH-01の音を外部で鳴らすことができます。ヘッドフォンや外部スピーカーの音量(SH-01の出力レベル)は、サイドパネルのVOLUMEで調節します。

＊ケーブルはそれぞれの端子の規格に合ったものをお使いください。
＊LINE OUT/PHONES端子にプラグを差し込むと、内蔵スピーカーの音は出なくなります。

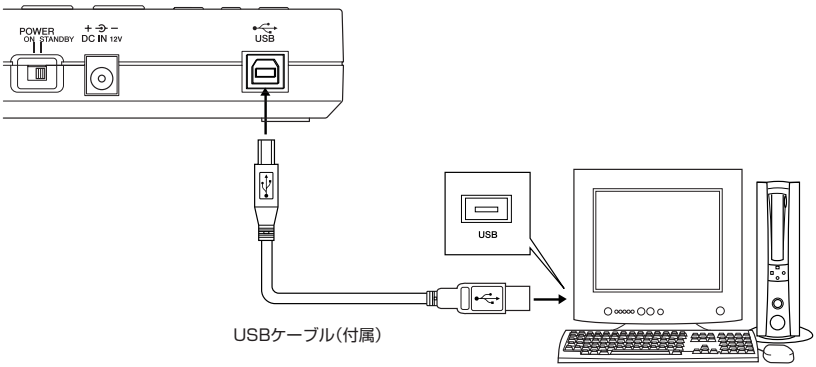


コンピューターとの接続

SH-01をコンピューター(Windows98SE以上を搭載)と接続することにより、SH-01で作成したサウンドデータファイルをコンピューターで管理したり、コンピューター上で作成またはダウンロードしたサウンドデータファイルをSH-01で扱うことができます。また、SH-01のエフェクトパラメーターのセットアップもコンピューター経由で行なうことができます。(→36ページ)

● 接続

付属のUSBケーブルを使って、コンピューターのUSB端子とSH-01のUSB端子とを接続します。接続後SH-01の電源を入れ、アプリケーションを開く(立ち上げる)ことで、通信可能になります。



* SH-01←→コンピューター間で扱えるファイルやデータ通信でできることについては、35ページをご参照ください。
* 接続の前にアプリケーションのインストールが必要です。(→36ページ)

SH-01を使ってみよう

まず基本的な録音と再生をやってみましょう。

内蔵マイクを使って録音してみよう

SH-01の内蔵マイクを使って録音してみましょう。

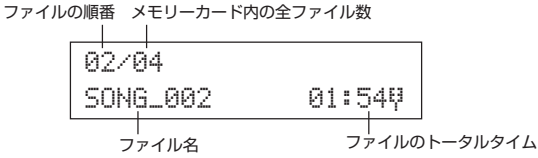
1 SH-01のカードスロットに付属のメモリーカードをセットし、**POWER**スイッチをONにします。

＊SH-01が立ち上がるまで、“YAMAHA SOUND SKETCHER”という表示が続きます。この間はキー操作は無効です。

ディスプレイに“YAMAHA SOUND SKETCHER”と表示された後、以下のような画面が表示されるはずです。

これは、メモリーカード内に、SH-01で認識できるファイル(.MP3, .WAV)がひとつもないことを表しています。また、INTERNAL MICスイッチがONになっている場合は、ディスプレイ右下に内蔵マイクアイコンが表示されます。今回は内蔵マイクを使いますので、INTERNAL MICスイッチをONにします。

SH-01で認識できるファイルがある場合は、次のような画面(これを基本画面と呼びます)が表示されます。



ディスプレイ上段には、前回録音したファイルの順番/メモリーカード内の全ファイル数が表示され、ディスプレイ下段には、前回録音したファイルのファイル名とそのファイルのトータルタイムが表示されます。

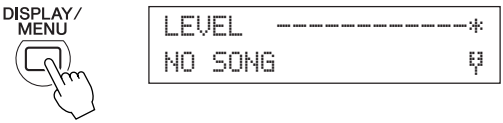
＊ファイルはファイル名のABC順で表示されます。

＊メモリーカードを挿入せずにPOWERスイッチをONにした場合は、“NO CARD”とメッセージが表示されます。メモリーカードをカードスロットにセットしてください。

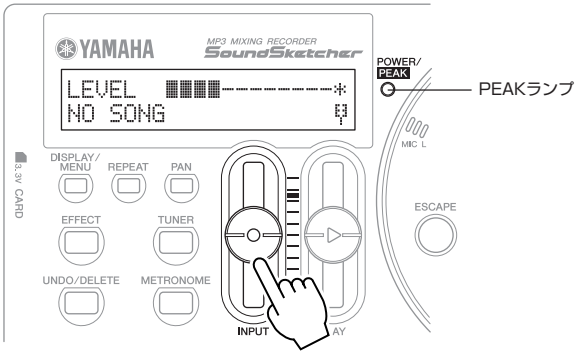
＊メモリーカードが認識されない場合は、“UNSUPPORTED CARD”とメッセージが表示されます。34ページ『メモリーカードのフォーマット』の手順に従ってフォーマットを行なってください。

2 それでは、歌を歌ってそれを録音してみましょう。
まずリハーサルで歌って、録音レベルを調整しましょう。

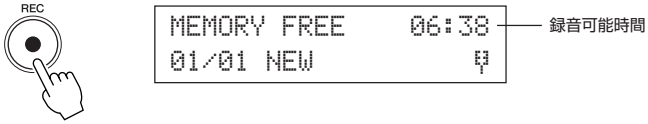
＊**[DISPLAY/MENU]**キーを押してレベル表示モード(下図)にすると録音レベルがメーター表示されるので便利です。



PEAKランプが赤く点灯しない範囲で、できるだけ高いレベルに**INPUT**ボリュームを調整します。



3 **[REC]**キーを押すと録音待機状態になり、録音可能時間が表示されます。

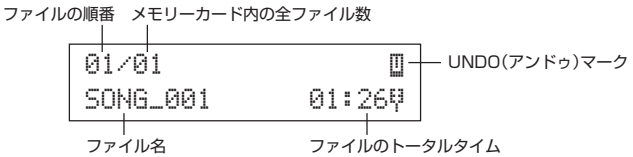


＊録音可能時間が足りない場合は、録音モードを変更(→38ページ)するか、不要なファイルを削除(→32, 33ページ)、または容量の大きなメモリーカードに変えるなどしてください。

4 **[▶/■]**キーを押して録音スタート！
内蔵マイクに向かって歌ってください。

＊録音スタート/ストップの際、**[▶/■]**キーを強く叩いたりすると、その音まで録音されてしまいます。静かに押しましょう。

5 歌い終わったら、**[▶/■]**キーを押して録音終了。
いま録音したファイルに自動的に名前が付けられ、メモリーカードに保存されたことがディスプレイに表示されています。



6 さっそく、再生してみましょう。
まず、リアパネルのINTERNAL MICスイッチをOFFにします(ONのままでは内蔵スピーカーから音が出ません)。

[►/■]キーを押して再生開始。
PLAYボリュームを基準位置(太線の印のところ)に合わせ、**VOLUME**で内蔵スピーカーの音量を調整しましょう。
出来具合はどうでしょう。もう一度やり直したい場合は、**[UNDO/DELETE]**キーを押してください。アンドゥ(取り消し)が実行され、今の録音データはメモリーカードから削除されます。
＊SH-01の電源をオフにする、もしくはメモリーカードを抜くと、アンドゥはリセットされます。

これが最も基本的な録音/再生の方法です。
でもSH-01の実力はこんなものではありません。
次はSH-01の機能をふんだんに使って、多重録音をやってみましょう。

ファイル名

SH-01で新規録音した際、作成されたファイルにはSONG_xxxといったファイル名が自動的に付けられます。xxxは001から始まり(SONG_001)、次にファイルが作成されるごとに数字が1ずつ増えたファイル名(SONG_002, SONG_003.....)が付けられます。この数字はSH-01のファクトリーセット(下記参照)を実行しない限り増え続けます。

ファクトリーセット

SH-01の内部設定を工場出荷時の状態に戻す操作です。

ファクトリーセットを実行すると、録音モードなどの各種設定およびADD-ONエフェクトの内容はすべて工場出荷時の状態に戻りますのでご注意ください。また、ファイル名の数字もSONG_001からに戻ります。ファクトリーセットを実行しても、メモリーカード内のデータは失われません。

[DISPLAY/MENU]キーと**[EFFECT]**キーを押しながら電源を入れると、ファクトリーセットの確認画面"FACTORY SET OK?"が表示されます。**[+]**キーを押すと、ファクトリーセットが実行されます。**[–]**キーを押すと、ファクトリーセットはキャンセルされます。

録音モード(ファイルタイプ、ビットレート)

SH-01では、メモリーカードに録音する際のファイル形式として、MP3またはWAVが選べます。さらにMP3の場合は、ビットレートを4段階から選べます。

設定できる録音モード：MP3-64k, MP3-96k, MP3-128k, MP3-192k, WAV

ビットレートとはデータ変換の精度です。ビデオデッキの標準速/3倍速のようなものと考えるとわかりやすいでしょう。MP3-64kとMP3-96kを比べた場合、MP3-64kの方がファイルサイズが小さくてすみますが、音質ではMP3-96kに劣ります。また、WAV形式はMP3形式に比べて音質が優れていますがファイルサイズが大きくなります。
通常の録音ではMP3-128kで十分な音質でしょう。ただしミックス録音を行なうと音質が多少劣化しますので、ミックス録音をくり返す場合などはMP3-192kをおすすめします。工場出荷時はMP3-192kに設定されています。

録音モードの設定方法については、『録音モード』(38ページ)をご覧ください。

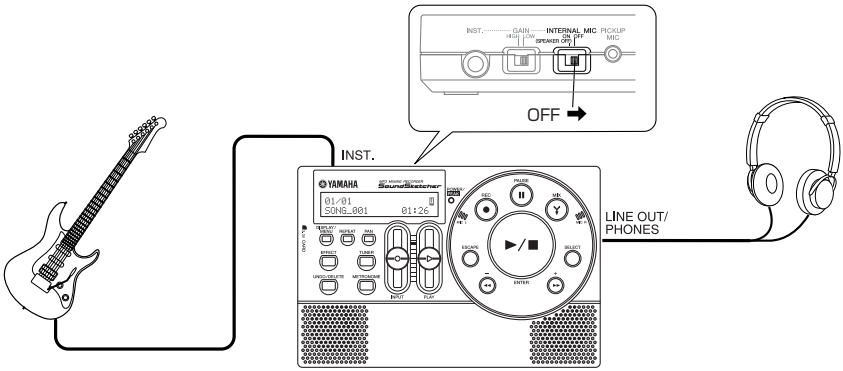
ミックス録音をしてみよう

こんどは、ミックス録音機能を使って、ギター演奏を録音した後でボーカルを重ねて録音してみましょう。

＊その前に、ギターのチューニングは大丈夫？SH-01にはチューナー機能も装備されているから、24ページを見てチューニングをしておこう。

● ギターの録音（新規録音の手順）

1 SH-01の**INST.**端子にエレキギター/エレアコを接続します。アコースティックギターの場合は、内蔵マイク、もしくは**INST.**端子にマイク（ダイナミック）を接続して音を拾いましょう。内蔵マイクを使わない場合は、**INTERNAL MIC**スイッチは“OFF”にしておきます。また、モニター用にヘッドフォンを**LINE OUT/PHONES**端子に接続します。（→15ページ参照）



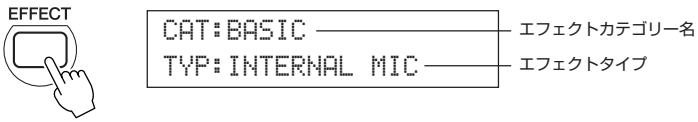
2 17, 18ページの手順 **2** と同様の手順で、

・ギターを弾き、ヘッドフォンでモニターしながら入力レベルを調整

します。これでギターの録音準備は完了です。でも、今回はギターにSH-01内蔵のエフェクトをかけてみましょう。

3 **[EFFECT]**キーを押して、**エフェクト設定**画面にします。

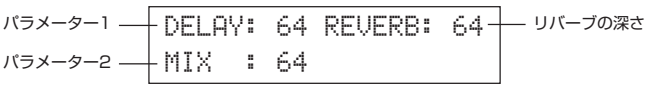
上段にはエフェクトのカテゴリー名が、下段にはエフェクトタイプが表示されています。



エフェクトは用途別に8つのカテゴリーに分類されています。各カテゴリー内には8タイプのエフェクトがあるので、合計で64タイプのエフェクトが用意されています。各エフェクトについて詳しくは、『エフェクトタイプリスト』(42ページ)をご覧ください。

かけたいエフェクトのカテゴリーとタイプを選びましょう。
[SELECT]キーを押して設定したい項目(カテゴリー名またはエフェクトタイプ)を点滅させ、**[–]/[+]**キーでカテゴリー名またはタイプを選びます。
エフェクトは表示された時点で効きますので、実際に音を聞きながら選ぶことができます。

また、効果の深さやかかり具合を調整することもできます。
[EFFECT]キーを長押しすると、現在選ばれているエフェクトのパラメーター設定画面が表示されます。下図の様に、エフェクトごとに2つのパラメーターを調整することができます。また、すべてのエフェクトについてリバーブの深さを設定することができます。各エフェクトのパラメーターついて詳しくは、『エフェクトタイプリスト』(42ページ)をご覧ください。



[SELECT]キーを押して設定したい項目(パラメーター1、パラメーター2、リバーブ)を点滅させ、**[–]/[+]**キーで数値を設定します。

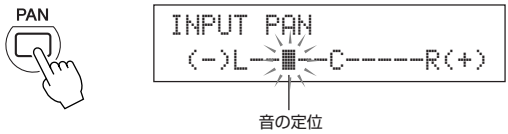
＊**[–]**キーを押した状態で**[+]**キーを押すと、数値は10ステップで減ります。同様に**[+]**キーを押した状態で**[–]**キーを押すと、数値は10ステップで増えます。この機能はファイルの選択やパラメーターの設定などの際にも有効です。

エフェクトごとに設定できるパラメーター1/2は異なります。

＊エフェクトカテゴリー"DISTORTION"選択時、内蔵スピーカーで音声出力すると、本体の振動によりエフェクトノイズが発生する場合があります。"DISTORTION"選択時はヘッドフォンもしくは外部スピーカーをお使いになることをおすすめします。

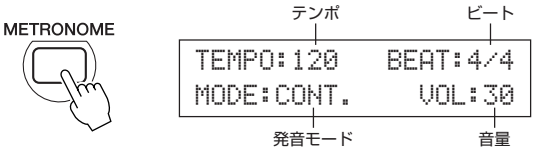
設定ができたら**[ENTER]**キーもしくは**[EFFECT]**キーを押して基本画面に戻ります。

4 さらに、入力ソースの**パン(ステレオの定位)**も設定することができます。
ギターを2本左右に分けて録音したい場合などは、パンを設定しましょう。
[PAN]キーを押して、パン設定画面にします。
点滅しているブロック(▦)が現在の設定位置です。**[–]/[+]**キーで音の定位を左(L)右(R)に移動して設定しましょう。Cがセンター(中央)です。



設定ができたら**[ENTER]**キーもしくは**[PAN]**キーを押して基本画面に戻ります。

5 SH-01は**メトロノーム**も内蔵しています。メトロノームに合わせて正確なテンポでギターを演奏しましょう。
下図のようなメトロノーム設定画面が表示されるまで、**[METRONOME]**キーを長押しします。すぐにメトロノームが現在の設定で鳴り出します。**[►/■]**キーのランプもメトロノームに合わせて点滅(小節の頭で赤、それ以外は緑)します。
[SELECT]キーを押して設定したい項目(テンポ、ビート、モード、音量)を点滅させ、**[–]/[+]**キーで数値や状態を設定します。



・テンポ(TEMPO) ..... 30〜250(1ステップ) 【初期値:120】
・ビート(BEAT) ..... 1/4、2/4、3/4, 4/4、6/8 【初期値:4/4】
・発音モード(MODE) ..... CONT.、PRE. 【初期値:CONT.】
メトロノームをいつ鳴らすかを設定します。
PRE.(プリカウント)に設定すると、録音の前にのみ、2小節分のカウント(プリカウント)としてメトロノームを鳴らすことができます。録音待機中はメトロノームは鳴りません。

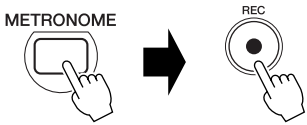
		CONT.	PRE.
停止時		発音する	発音しない
新規録音時	プリカウント	発音する	発音する
	録音中	発音する	発音しない

・音量(VOL) ..... 0〜80(1ステップ) 【初期値:30】

お好みのテンポ、ビート、音量に設定してください。今回は発音モードは“CONT.”にしましょう。

設定ができたら**[ENTER]**キーもしくは**[METRONOME]**キーを押して基本画面に戻ります。
＊メトロノームの設定は電源を切っても本体に記憶されます。同じ設定で鳴らす場合は**[METRONOME]**キーを押すだけでメトロノームをスタートさせることができます。
＊ミックス録音時はメトロノーム機能は使えません。

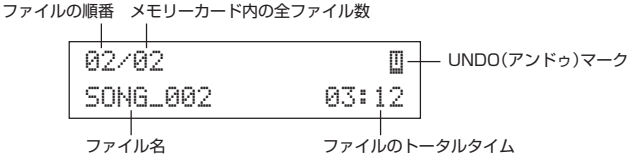
6 では、録音を始めましょう。
[METRONOME]キーを押した後、**[REC]**キーを押して録音待機状態にします(録音可能時間の確認も忘れずに)。



7 **[►/■]**キーを押して録音開始。メトロノームのプリカウント2小節を聞いてから、ギターの1小節目を弾きましょう。

> **メトロノームをONにしている場合、実際の録音タイミングは2小節分のプリカウントの後(3小節目の頭)になります！**

8 演奏が終わったら、**[►/■]**キーを押して録音終了。
録音したファイルに自動的に名前が付けられ、メモリーカードに保存されます。



* 熱演が長時間に渡ったり、メモリーカードの容量が少なかったりして、録音中にメモリーカードの容量がなくなった場合は、その時点までの録音内容でファイルが作成され、自動停止します。
* 録音中にSH01の電源を切ったりメモリーカードを抜いたりした場合やエラーが発生した場合、録音中のファイルは作成されません。

9 **[►/■]**キーを押して再生開始。出来具合を聞いてみよう。
気に入らなかったら？そう、**[UNDO/DELETE]**キーを押してアンドゥ(取り消し)を実行してもう一度録音しましょう。
* SH-01の電源をオフにする、もしくはメモリーカードを抜くと、アンドゥはリセットされます。

さあ、満足のいく録音はできましたか？
次はこのギターをバックにボーカルをミックス録音してみましょう。

> 録音されたデータはメモリーカードにファイルとして保存されているので、ここで作業を中断してSH-01の電源を切っても問題はありません。メトロノーム、録音モードなどの設定も本体に記憶されます。エフェクトの設定については、エフェクトセットアップ(→40ページ)の設定を“BACKUP”にすることにより、本体に記憶させることができます。

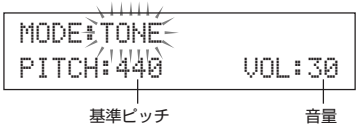
チューナー機能の使い方

SH-01のチューナー機能には、次の2つのモードがあります。

- **トーンモード.....** A～G#までの12音から選択した音を発音します。
- **チューニングモード ....** 入力した音に一番近い音名と、その音より高いか低いかを表示します。

●トーンモードの使い方

1. **[TUNER]**キーを長押しして、チューナーの基本設定画面を表示させます。
   [–]/[+]キーを押してディスプレイ上段に"TONE"を表示させます(トーンモード選択)。この時点で音が鳴っています。ボディサイドの**VOLUME**で音量を調節しましょう。



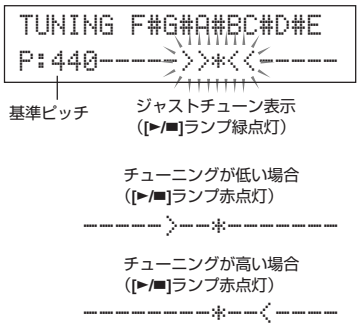
2. 必要に応じて、**[SELECT]**キーを押してピッチ表示を点滅させ、**[–]/[+]**キーで基準ピッチ(435～446、初期値=440)を設定します。
3. **[SELECT]**キーを押して音量表示を点滅させ、**[–]/[+]**キーで発音音量を調整します。
4. **[TUNER]**キーを押してトーンモードの設定画面を表示させ、**[–]/[+]**キーで発音させる音名表示を点滅させます。目的の音が発音します。

5. **[ENTER]**キーもしくは**[TUNER]**キーを押すと、通常モードに戻ります。

●チューニングモードの使い方

1. **[TUNER]**キーを長押しして、チューナーの基本設定画面を表示させます。
   [–]/[+]キーを押してディスプレイ上段に"TUNING"を表示させます(チューニングモード選択)。

2. 必要に応じて、**[SELECT]**キーを押してピッチ表示を点滅させ、**[–]/[+]**キーで基準ピッチ(435～446、初期値=440)を設定します。
3. **[TUNER]**キーを押してチューニングモードの画面を表示させます。
4. 内蔵マイクまたは**INST.**端子、**LINE IN**端子からの入力音に対して、一番近い音名がディスプレイに点滅表示され、その音より高いか低いかがディスプレイ表示と**[▶/■]**キーのランプの点灯で表わされます。
   *入力信号によっては、正しく表示されない場合があります。
5. 下図ジャストチューン表示になるように楽器をチューニングしましょう。



6. **[ENTER]**キーもしくは**[TUNER]**キーを押すと、通常モードに戻ります。

＊ チューナーの設定は電源を切っても本体に記憶されます。同じ設定で使う場合は**[TUNER]**キーを押すだけでチューナーを動作させることができます。

● ボーカルの録音(ミックス録音の手順)

次はこのギターにボーカルを重ねて録音するわけですが、その前にボーカルのリハーサルをしておきましょう。

1 SH-01の電源を切った状態で、INST.端子にボーカルマイク(ダイナミックタイプ)を接続し、INTERNAL MICスイッチを"OFF"にします。(→14ページ参照)

2 **POWER**スイッチをONにします。

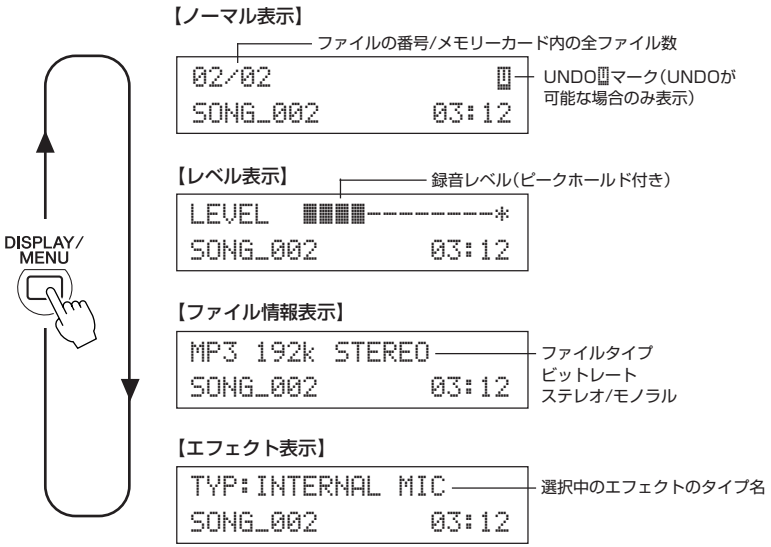
* SH-01が立ち上がるまで、"YAMAHA SOUND SKETCHER"という表示が続きます。この間はキー操作は無効です。

SH-01は前回録音したファイルを選択した状態で立ち上がります。

```
02/02
SONG_002          03:12
```

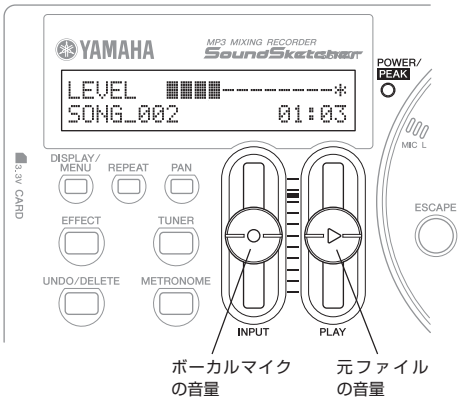
ファイル情報のディスプレイ表示

SH-01の電源を入れると、何もキー操作をしない状態では、ディスプレイには下記の様な**ノーマル表示**画面(基本画面)が表示されますが、**[DISPLAY/MENU]**キーを押す毎に、次のように**レベル**、**ファイル情報**、**エフェクト設定**と表示が切り替わるので、ミックス録音の元ファイルの設定を確認することができます。



ディスプレイ下段の表示は共通で、ファイル名とファイルのトータルタイムが表示されます。

3 元ファイルのギターの音と、そこにミックスするボーカルの音のバランスを調整しましょう。
まず、**[►/■]**キーを押して元ファイルを再生開始。
[DISPLAY/MENU]キーを押してレベル表示モードにしたら、実際に歌いながら、元ファイルの音量(**PLAY**ボリューム)とボーカルマイクの音量(**INPUT**ボリューム)を調整しましょう。ヘッドフォンでモニターしながら行なうとよいでしょう。

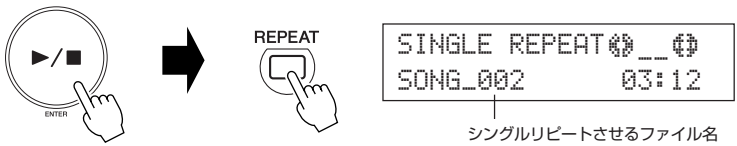


4 もちろん、ボーカルにもエフェクトやパンを設定することができます。20, 21ページの手順 **3**〜**4**と同様の手順で設定しましょう。

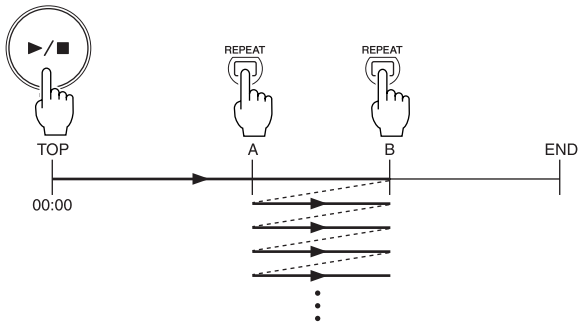
これでボーカル用のセッティングはできました。
でもミックス録音をする前に、元ファイル(ギター演奏)をリピート再生してボーカルパートの練習をしましょう。

5 リピート再生には、次の2つのモードがあります。
・**シングルリピート**..... 1曲の最初から最後までをくり返し再生。
・**ABリピート**..... 曲の中の指定した範囲をくり返し再生。

シングルリピートさせる場合は、[►/■]キーを押してファイルを再生開始後、**[REPEAT]**キーを長押しします(シングルリピート設定画面)。



ABリピートさせる場合は、[►/■]キーを押してファイルを再生開始後、リピートの開始点まで来たら**[REPEAT]**キーを1回押します。そのまま再生を続け、リピートの終了点まで来たらもう1回**[REPEAT]**キーを押します。自動的に設定した区間でのリピート再生が始まります。



＊シングルリピートおよびABリピート再生中に**[–]/[+]**キーもしくは**[REPEAT]**キーを押すとリピートが解除され、そのまま通常の再生を続けます。
＊シングルリピートおよびABリピートの設定は、再生を停止すると解除されます。

リピート再生以外にも、次のような再生に便利な機能があります。

- **[PAUSE]キー**..... 再生中に押すと、その場で一時停止します。**[PAUSE]**キーまたは**[►/■]**キーを押すと、その位置から再生を開始します。
- **[◄◄]/[►►]キー**..... 再生中に押すと、前のファイル/次のファイルへ移動します。また、再生中に長押しすると、巻き戻し/早送りできます。
- **[►/■]キー** ..... 再生開始後、**[►/■]**キーを押さない限り、最後のファイルまで次々と連続してファイルを再生します。

6 こころゆくまでボーカルの練習ができたら、**[►/■]**キーを押して再生を停止します。
次に**[MIX]**キーを押してミックス録音待機状態にします（録音可能時間の確認も忘れずに）。

＊元曲から計算して、メモリーカードの容量がミックス録音に不足する場合は、“NOT ENOUGH MEMORY OK?”というメッセージが出ます。不要なファイルを削除したり（→32ページ）、コンピューターにファイルを移動したり（→37ページ）して、空き容量を増やしてから操作を続けてください。
＊録音モードが“.WAV”に設定されている場合は、ミックス録音できません。“CAN'T MIX @WAV MODE!”というメッセージが出ます。録音モードを“MP3”に変更してください。（→38ページ）

7 **[►/■]**キーを押して録音開始。素晴らしいギター演奏をバックに歌いましょう。

8 **[►/■]**キーを押して録音終了。

* 録音途中に**[►/■]**キーを押して録音を終了すると、その時点までの録音内容でファイルが作成されます。元ファイルのそれ以降のデータも消えてしまいますのでご注意ください。
また、録音中にメモリーカードの容量がなくなった場合も、その時点までの録音内容でファイルが作成され、自動停止します。
いずれの場合もアンドゥは有効なので、**[UNDO/DELETE]**キーを押してミックス録音をやり直すことができます。
* 録音中にSH01の電源を切ったりメモリーカードを抜いたりした場合やエラーが発生した場合、ミックス録音は無効となります。元ファイルはそのまま残ります。

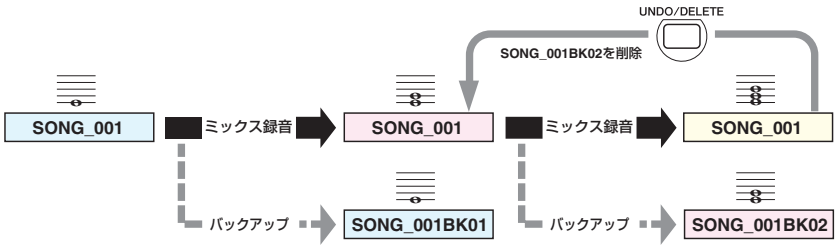
9 **[►/■]**キーを押して再生開始。出来具合を聞いてみよう。
気に入らなかったら？そう、**[UNDO/DELETE]**キーを押してアンドゥ（取り消し）を実行してもう一度録音しましょう。

* SH-01の電源をオフにする、もしくはメモリーカードを抜くと、アンドゥはリセットされます。

ここまでできたら、あとはもう簡単。同様の手順でさらにコーラスパートや他の楽器をミックス録音するなど、アイディアを駆使して自由に楽しんでください。

ミックス録音時のバックアップファイル

ミックス録音を行なうと、自動的にミックス録音前のバックアップファイルが作成されます。
下図のようにミックス録音をくり返した場合は、それぞれの録音操作前のファイルがバックアップされ、残ります。



ミックス録音対象のファイルはもちろん元のファイル名のままで、アンドゥを実行するとその録音操作前の状態に戻ります（このとき最新のバックアップファイルは自動的に削除されます）。
ミックス録音の結果を別テイクとして残したい場合は、バックアップファイルをリネームし、それに対して新たなミックス録音をするとよいでしょう。

CD/MDの録音

SH-01では、マイクや楽器入力のほかに、CDやMDなどのソースを録音することもできます。

市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

● CD/MDからの録音

1 CDプレーヤーやMDプレーヤーなどの出力端子とSH-01のLINE IN端子とを接続します。(→15ページ)

2 **[DISPLAY/MENU]**キーを押してレベル表示モードにしたら、録音したいCD/MDを再生開始。**INPUT**ボリュームで録音レベルを調整します。

3 もちろん、エフェクトやパンを設定することができます。CDやMDなどのオーディオソースを録音する場合は、エフェクトカテゴリー"BASIC"の中の"AUDIO"を設定することをおすすめします。(→20〜21ページ:手順 3〜4)

4 **[REC]**キーを押して録音待機状態にします(録音可能時間の確認も忘れずに)。

5 録音したいCD/MDを再生し、**[▶/■]**キーを押して録音開始。

6 **[▶/■]**キーを押して録音終了。

録音してできたファイルにミックス録音することができるので、カラオケをバックに熱唱するオリジナルMP3データファイルだって簡単。

エフェクトについて

エフェクトは、音を歪ませたりコーラスやディレイで広がりを与えるといった"積極的に音を変える"ためだけのものではありません。ギターの音をよりギターらしくしたり、入力音の信号のバラツキを整えたりすることも、よいサウンドを作るために重要なことです。
エフェクトカテゴリー"BASIC"には、そのような補正用エフェクトが用意されています。
また、エフェクトカテゴリー"MASTERING"を選んでミックス録音を行なうと、録音済みのファイルにエフェクトをかけることができます。詳しくは、次ページ『マスタリングの手順』をご覧ください。

マスタリングの手順

録音済みのファイルにエフェクトカテゴリー“MASTERING”のエフェクトをかける作業です。完成した曲全体にエフェクトをかけたり音質を整えたりするテクニックです。

1 すべての入力ソース(INST.端子、LINE IN端子、PICKUP MIC端子)をオフにするか接続を外します。また、INTERNAL MICスイッチを“OFF”にします。

＊マスタリング作業中は入力ソースからの信号も受け付けます(**INPUT**ボリュームおよび**[PAN]**キーの設定は固定)。不要な入力ソースが録音されないよう、内蔵マイクや外部入力は回路から切り離しておきましょう。

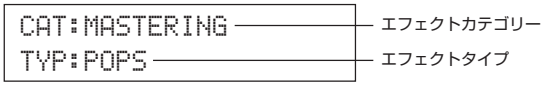
2 マスタリング対象のファイルを選びます。

＊ここで**[▶/■]**キーを押して再生をスタートすると、実際に音を聞きながらエフェクトを選択することができます。

3 **[EFFECT]**キーを押して、**エフェクト設定**画面にします。
[SELECT]キーと**[–]/[+]**キーで、カテゴリーに“MASTERING”を選びます。

＊マスタリング作業は、“MASTERING”カテゴリー以外のエフェクトでは行なえません。

[SELECT]キーと**[–]/[+]**キーで、マスタリング対象のファイルの内容に合ったエフェクトタイプを選びます。



＊エフェクトタイプについて詳しくは、『エフェクトタイプリスト』(42ページ)をご覧ください。

＊**[EFFECT]**キーを長押しして表示されるパラメーター設定画面で、効果の深さやかかり具合を調整することもできます。(21ページ参照)

4 **[▶/■]**キーを押して再生し、**PLAY**ボリュームで録音レベルを調整します。

＊**INPUT**ボリュームは無効です。

5 **[MIX]**キーを押してミックス録音待機状態にします(録音可能時間の確認も忘れずに)。

6 **[▶/■]**キーを押して録音(マスタリング)開始。

＊録音中も**PLAY**ボリュームは有効なので、フェードイン/アウトも可能です。

7 **[▶/■]**キーを押して録音(マスタリング)終了。

＊マスタリング作業もミックス録音ですので、自動的にバックアップファイルが作成されます。(28ページ参照)

“MASTERING”エフェクト選択時は、通常の再生音にもエフェクトがかかってしまいます。
マスタリング終了後はエフェクトカテゴリーを"MASTERING"以外に変更してください。

ファイルの管理

SH-01では、録音されたデータはMP3ファイルもしくはWAVファイルとして、メモリーカードへ保存されます。
これらのファイルは一般的なサウンドファイルデータ形式ですので、コンピューターとSH-01との間でファイル交換を行なうことができます。

ファイルのバックアップ

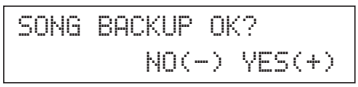
現在選択しているファイルのバックアップファイルを作成します。

1 あらかじめ、バックアップファイルを作成したいファイルを選んでおきます。

2 **[DISPLAY/MENU]**キーを長押しして、システム設定メニュー画面(上段に"MENU"表示)にします。

3 **[–]/[+]**キーで下段に"SONG BACKUP"を表示させ、**[ENTER]**キーを押します。
* メモリーカード内にファイルがない場合は、"SONG BACKUP"は表示されません。

4 下記画面が表示されます。



5 **[+]**キーを押すと、メモリーカード内にバックアップファイルが作成されます。
[–]キーを押すと、バックアップファイルの作成をキャンセルしてシステム設定メニュー画面に戻ります。
* コンピューターなどの外部からUSB端子を経由してSH-01(のメモリーカード)に転送されたファイルはバックアップされません。
* バックアップファイル名は、元ファイル名の後にBKnn(nnはファイル処理された順の数字)を追加したものになります。ただし元ファイル名が9文字以上ある場合は、9文字以降がカットされたファイル名にBKnnが追加されます。

ファイル名の変更(リネーム)

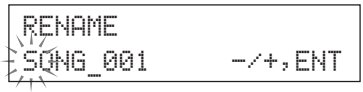
メモリーカード内にあるファイルのファイル名を変更します。

1 あらかじめ、ファイル名を変更したいファイルを選んでおきます。

2 **[DISPLAY/MENU]**キーを長押しして、システム設定メニュー画面(上段に"MENU"表示)にします。

3 **[–]/[+]**キーで下段に"SONG RENAME"を表示させ、**[ENTER]**キーを押します。
＊メモリーカード内にファイルがない場合は、"SONG RENAME"は表示されません。

4 下記画面が表示されます。



5 **[–]/[+]**キーを押して、変更したい文字を点滅させます。

6 **INPUT**スライダーと**PLAY**スライダーで文字(キャラクター)を設定します。
・INPUTスライダー:A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
・PLAYスライダー:スペース 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ! # $ % & ( ) + , - = @ [ ] ^ _ { }

＊"TRACK000"という名前はSH-01のシステムで用いていますので、使わないでください。(電源オフ時に消去されます。)

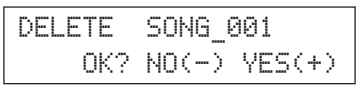
7 手順**5**, **6**をくり返して、ファイル名を変更します。**[ENTER]**キーを押して変更完了です。

任意のファイルの削除

現在選択中のオーディオファイル(.MP3、.WAV)を削除します。

1 あらかじめ、削除したいファイルを選んでおきます。

2 **[UNDO/DELETE]**キーを長押しします。下記画面が表示されます。



3 **[+]**キーを押すと、選択中のオーディオファイルが削除されます。
[–]キーを押すと、ファイル削除をキャンセルして基本画面に戻ります。

全ファイルの削除

メモリーカード内にあるすべての**オーディオファイル**(.MP3、.WAV)を削除します。

この操作を実行すると、メモリーカード内にあるすべてのオーディオファイルは消えてしまいます。またアンドゥ(UNDO)も効きません。よくご確認の上、実行してください。

1 **[DISPLAY/MENU]**キーを長押しして、システム設定メニュー画面(上段に"MENU"表示)にします。

2 **[–]/[+]**キーで下段に"ALLSONG ERASE"を表示させ、**[ENTER]**キーを押します。
＊メモリーカード内にファイルがない場合は、"ALLSONG ERASE"は表示されません。

```
MENU
ALLSONG ERASE-/+,ENT
```

3 下記画面が表示されます。

```
ALL SONG ERASE OK?
        NO(-) YES(+)
```

4 **[+]**キーを押すと、ファイル削除確認の画面(ARE YOU SURE?)が表示されます。
[–]キーを押すと、ファイル削除をキャンセルしてシステム設定メニュー画面に戻ります。

```
ARE YOU SURE?
        NO(-) YES(+)
```

5 **[+]**キーを押すと、メモリーカード内の全オーディオファイルが削除されます。
[–]キーを押すと、ファイル削除をキャンセルしてシステム設定メニュー画面に戻ります。

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードをフォーマット(初期化)します。

この操作を実行すると、メモリーカード内のすべてのファイルは消えてしまいます。またアンドゥ(UNDO)も効きません。よくご確認の上、実行してください。

1 フォーマットしたいメモリーカードをスロットに挿入します。

2 **[DISPLAY/MENU]**キーを長押しして、システム設定メニュー画面(上段に"MENU"表示)にします。

3 **[–]/[+]**キーで下段に"CARD FORMAT"を表示させ、**[ENTER]**キーを押します。

```
MENU
CARD FORMAT  -/+,ENT
```

4 下記画面が表示されます。

```
FORMAT CARD OK?
        NO(-) YES(+)
```

5 **[+]**キーを押すと、フォーマット確認の画面(ARE YOU SURE?)が表示されます。
[–]キーを押すと、フォーマットをキャンセルしてシステム設定メニュー画面に戻ります。

```
ARE YOU SURE?
        NO(-) YES(+)
```

6 **[+]**キーを押すと、フォーマットが実行されます。
[–]キーを押すと、フォーマットをキャンセルしてシステム設定メニュー画面に戻ります。

"ABOUT"画面について

[DISPLAY/MENU]キーを長押し → **[–]/[+]**キーで下段に"ABOUT"を表示させる → **[ENTER]**キーを押すことで、SH-01に関する情報が表示されます。複数画面に渡りますので、**[–]/[+]**キーで画面を切り替えてご覧ください。

コンピューターとのファイル交換

SH-01はUSB端子を装備し、コンピューターと直接接続することができます。
SH-01で作成したサウンドデータファイルをコンピューターで管理したり、コンピューター上で作成またはダウンロードしたサウンドデータファイルをSH-01で扱うことができます。また、SH-01のエフェクトパラメーターのセットアップもコンピューター経由で行なうことができます。

SH-01で扱えるファイル

SH-01では、以下のファイル形式を扱うことができます。

ファイル形式	再生	新規録音	ミックス録音
MP3	○	○	○
WAV	○	○	△ *1

*1： ミックス録音時、録音モードにWAV形式を選ぶことはできません。ただし、録音モードにMP3形式を選ぶことで、WAVファイルへのミックス録音は可能です。この場合MP3形式ファイルに変換されて録音されます。

上記以外のファイルは録音や再生の対象にはなりません。

通信でできること

- **SH-01からコンピューターへのファイル転送**
  * コピーではなく移動。転送後SH-01の元ファイルは消えます。また転送時、コンピューター側に著作権に関するメッセージと確認画面が表示されます。
- **コンピューターからSH-01へのファイル転送**
  * コピーではなく移動。転送後コンピューター側の元ファイルは消えます。また、USB経由でSH-01に転送したファイルはバックアップできません。再生およびミックス録音はできます。
- **SH-01のエフェクトパラメーターのデータ更新**
  サイトよりダウンロードしたSH-01のエフェクトパラメーターデータ(エフェクトカテゴリー"ADD-ON")を、コンピューターからSH-01へ転送しデータ更新することができます。詳しくは、**www.mp3rec.com** をご覧ください。

付属CD-ROMの内容

● データファイラー

SH-01とコンピューターとの間でのファイル移動のためのソフトウェアです。
使用方法については、次ページをご覧ください。

【動作環境】

コンピューター ..... USB端子を装備した、100MHz以上のintel® Pentium® およびCeleron™ ファミリーのプロセッサを搭載したパーソナルコンピューター
OS ..... Windows® 98SE/Me/2000/XP
メモリ 16MB以上
ハードディスク 2MB以上の空き容量
ディスプレイ 800x600ドット以上/256色以上

ソフトウェアのインストール

1 コンピューターを立ち上げ、Windowsを起動します。

2 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

3 「スタート」メニュー→「ファイル名を指定して実行」で、“F:¥Disk1¥Setup.exe”を実行します。
（F:はコンピューターにより異なります）
またはCD-ROMのDisk1フォルダー内のSetup.exeをクリックして立ち上げます。

4 インストール用ソフトが起動して、下図のような画面が表示されます。

5 ここから先は、画面の指示にしたがってインストール操作をしてください。

コンピューターとのデータ移動(データファイラー)

付属CD-ROMよりインストールした“データファイラー”を使うと、SH-01とコンピューターとの間でのファイル移動が簡単に行なえます。

1 コンピューターとSH-01をUSBケーブルで接続します。(→16ページ参照)

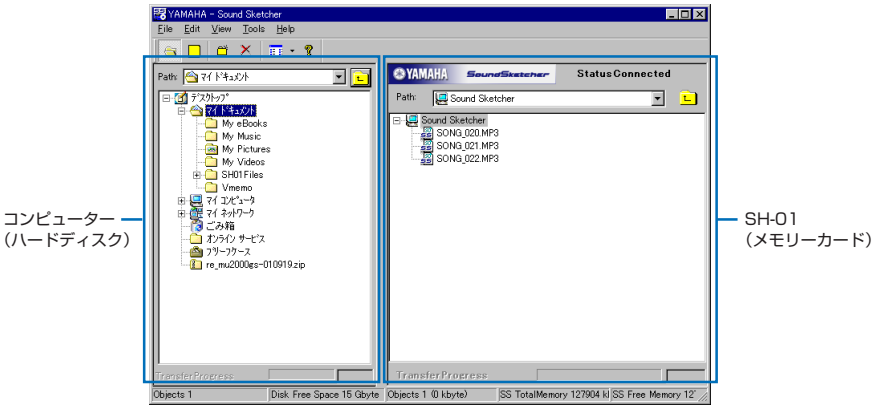
2 SH-01の電源をONにします。

* **コンピューターとSH-01を初めて接続したときのみ**、「新しいハードウェアが見つかりました」という画面が表示され、ドライバのインストールウィザードが立ち上がる場合があります。インストールウィザードに従ってドライバをインストールしてください。

3 「スタート」メニュー→「プログラム」→「SoundSketcher」から「SoundSketcher」を選択します。

4 データファイラーが立ち上がり、下図のような画面が表示されます。
通常のWindows上のファイル移動と同様に、コンピューター(ハードディスク)とSH-01(メモリーカード)との間でファイルアイコンをドラッグすることで、ファイルを移動することができます。

* サイトよりダウンロードしたSH-01のエフェクトパラメーターデータ(エフェクトカテゴリー“ADD-ON”)も、ファイルアイコンをSH-01フォルダへドラッグコピーするだけで、自動的にアップデートが実行されます。詳しくは、www.mp3rec.com をご覧ください。



データ移動時の注意事項

- コンピューターからSH-01本体に、またはSH-01本体からコンピューターにデータを移動すると、元の場所からはデータはなくなります。
- コンピューターからSH-01本体に移動したデータに対しては、SH-01本体ではバックアップ処理できません。
- SH-01本体では日本語ファイル名(2バイトコード文字)は正しく表示されません。また日本語名称のファイルに対するミックス録音も行なうことはできません。

システムの設定

SH-01のシステムに関する設定をここで解説します。

録音モード

録音時の条件(ファイルタイプ、ビットレート)を設定します。

＊サンプリングレートは44.1kHz固定、オーディオデータは16bitです。

1 **[DISPLAY/MENU]**キーを長押しして、システム設定メニュー画面(上段に"MENU"表示)にします。

2 **[–]/[+]**キーで下段に"RECORD MODE"を表示させ、**[ENTER]**キーを押します。

```
MENU
RECORD MODE  -/+,ENT
```

3 録音モード設定画面が表示されます。

```
RECORD MODE:
MP3-192k     -/+,ENT
```

4 **[–]/[+]**キーを押して、録音モードを設定します。
設定できる録音モード(ファイルタイプ-ビットレート)は以下の通りです。

MP3-64k, MP3-96k, MP3-128k, MP3-192k, WAV

録音モード	メモリーカードサイズ別　録音可能時間(目安)　単位：min			
	16M	32M	64M	128M
MP3-64k	32	64	128	256
MP3-96k	21	42	85	170
MP3-128k	16	32	64	128
MP3-192k	10	21	42	85
WAV	1	3	6	12

＊MP3ファイルでは、ビットレートの数字が大きいほど音質が向上します。
＊WAVファイルはMP3ファイルに比べて高音質ですが、ファイルサイズが大きく(録音可能時間が短く)なります。

5 **[ENTER]**キーを押すと、設定が確定され基本画面に戻ります。

コントラスト調整

ディスプレイのコントラスト(濃淡差)を調整します。

1 **[DISPLAY/MENU]**キーを長押しして、システム設定メニュー画面(上段に"MENU"表示)にします。

2 **[–]/[+]**キーで下段に"CONTRAST"を表示させ、**[ENTER]**キーを押します。

```
MENU
CONTRAST      –/+,ENT
```

3 コントラスト調整画面が表示されます。

```
CONTRAST:
■■■■■-----    –/+,ENT
```

4 **[–]/[+]**キーを押して、コントラストを調整します。
調整は10ステップ。ディスプレイ下段にブロック(■)表示されます。

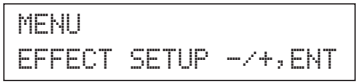
5 **[ENTER]**キーを押すと、設定が確定され基本画面に戻ります。

エフェクトセットアップ

あなたが変更した各種エフェクトの設定値をSH-01内のメモリーに残す(BACKUP)か、残さない(DEFAULT)かを設定します。
“DEFAULT”に設定している場合、次回電源ON時、各エフェクトの設定値はデフォルト(初期値)に戻ります。

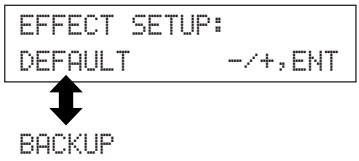
1 **[DISPLAY/MENU]**キーを長押しして、システム設定メニュー画面(上段に“MENU”表示)にします。

2 **[–]/[+]**キーで下段に“EFFECT SETUP”を表示させ、**[ENTER]**キーを押します。



3 エフェクトセットアップの設定画面が表示されます。

4 **[–]/[+]**キーを押して、“DEFAULT”または“BACKUP”を設定します。



5 **[ENTER]**キーを押すと、設定が確定され基本画面に戻ります。

仕様

デジタル部

再生可能ファイル：MP3, WAV
録音可能ファイル：MP3, WAV
ミックス録音可能ファイル：MP3
サンプリング周波数：44.1kHz, 16bit
MP3レート：64～192kbps
周波数特性：20Hz～20kHz
全高調波歪率：0.1% @1kHz
S/N比：80dB

録音可能時間

新規録音時(64MB CARD)：
約64分 @MP3-128kbps
約6分 @WAV

最大ファイル数

80ファイル
* メモリーカード内にMP3, WAV形式以外のファイルがある場合、および13文字以上のファイル名を持つファイルがある場合は、80ファイル以下になる場合がある。

入出力

内蔵マイク：ステレオコンデンサー
INST.端子：モノラルフォーン
INST.端子＆内蔵マイクGAINスイッチ：HIGH/LOW
PICKUP MIC端子：モノラルミニ、 2V供給
LINE IN端子：ステレオミニ
内蔵スピーカー：ステレオ、500mW+500mW
LINE OUT/PHONE端子：ステレオミニ
USB端子：スレーブ(SLAVE)

ソングコントロール

再生時：早送り(►►)、巻き戻し(◄◄)、一時停止(PAUSE)、A-B/シングルリピート
新規録音時：新規ソングファイル作成、メトロノーム
ミックス録音時：入力ソースと既存ソングファイルとのミックス
ソングファイル：バックアップ、削除、リネーム

データコントロール

メモリーカード：3.3V スマートメディア
USB接続：ソングファイルのアップロード/ダウンロード、エフェクトファイルのダウンロード
コピーライトプロテクト：バックアップの制限、アップロード時のメッセージ表示

エフェクト

64(8カテゴリー×8タイプ)
カテゴリー：BASIC、DELAY、CHORUS、EFX、DRIVE、DISTORTION、ADD-ON*、MASTERING
* ADD-ONはダウンロードによる書き替えが可能。
* 各エフェクトの2パラメーターおよびリバーブパラメーターを設定可能。

メトロノーム

テンポ：30～250
ビート：1～4/4, 6/8

チューナー

モード：トーンモード/チューニングモード
基準ピッチ：435～446Hz

電源

アルカリ単3乾電池(AA)×6本または
電源アダプター(YAMAHA PA-3C)
電池寿命：約2時間 @MP3再生時
約1.5時間 @MP3録音時
* 共にヘッドフォン使用時

寸法(W x H x D)

200 x 133 x 34 mm

質量

450g(乾電池を除く本体のみ)

*** 仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合があります。**

エフェクトタイプリスト

エフェクトカテゴリー エフェクトタイプ	特徴 可変パラメーター　＊ 下記に加え、全タイプにて"REVERB"パラメーター(リバーブのかかり具合)を調整可能
BASIC	**各入力に合わせた基本的な設定です。**
INTERNAL MIC	内蔵マイク用 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
INT.MIC+COMP	内蔵マイク用で音圧補正(コンプレッサー)をかけたもの LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
VOCAL.MIC	外部ボーカルマイク(ダイナミックマイク)用 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
VOCAL.MIC+COMP	外部ボーカルマイク用で音圧補正(コンプレッサー)をかけたもの LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
LINE.GUITAR	エレクトリックギター用 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
LINE.BASS	エレクトリックベース用 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
LINE+COMP	エレキギター・ベース用で音圧補正(コンプレッサー)をかけたもの LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
AUDIO	ＣＤ、ＭＤなどのオーディオ入力用 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
DELAY	**音に奥行きを与えるディレイ系のエフェクトです。**
DOUBLING	非常に短いシングルディレイ MIX ..... ディレイの音量調整 －－
SINGLE.SHORT	短いシングルディレイ TIME ..... ディレイの長さ調整 MIX ..... ディレイの音量調整
SINGLE.LONG	長いシングルディレイ TIME ..... ディレイの長さ調整 MIX ..... ディレイの音量調整
MONO.MIX	モノラルディレイ(パラメーター設定でMIXが可変) TIME ..... ディレイの長さ調整 MIX ..... ディレイの音量調整
MONO.FB	モノラルディレイ(パラメーター設定でフィードバックが可変) TIME ..... ディレイの長さ調整 FBLEV ..... ディレイのくり返し長さ調整
STEREO.MIX	ステレオディレイ(パラメーター設定でMIXが可変) TIME ..... ディレイの長さ調整 MIX ..... ディレイの音量調整
STEREO.FB	ステレオディレイ(パラメーター設定でフィードバックが可変) TIME ..... ディレイの長さ調整 FBLEV ..... ディレイのくり返し長さ調整
ENSEMBLE	広がり感のあるディレイ TIME ..... ディレイの長さ調整 FBLEV ..... ディレイのくり返し長さ調整

エフェクトカテゴリー エフェクトタイプ	特徴 可変パラメーター　＊ 下記に加え、全タイプにて "REVERB" パラメーター(リバーブのかかり具合)を調整可能
CHORUS	**音に広がりを与えるコーラス系のエフェクトです。**
SOFT	浅めなコーラス DEPTH .... うねりの深さ調整 – –
MEDIUM	自然なコーラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
HARD	深めなコーラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
PHASER.1	ソフトなフェイザー SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
PHASER.2	ハードなフェイザー SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
FLANGER.1	ソフトなフランジャー SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
FLANGER.2	ハードなフランジャー SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
STEREO SHIFT	うねりの少ないコーラス LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
EFX	**その他さまざまなエフェクトです。**
TREMOLO MONO	モノラル効果のトレモロ SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
TREMOLO STEREO	ステレオ効果のトレモロ SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
VIBRATO MONO	モノラル効果のビブラート SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
VIBRATO STEREO	ステレオ効果のビブラート SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH .... うねりの深さ調整
AUTO PAN	音が自動的に左右を移動するオートパン SPEED .... 移動のスピード調整 TYPE ..... 移動のしかた調整
ROTARY SPEAKER	回転スピーカーの効果 SPEED .... うねりのスピード調整 TONE..... トーン調整
AUTOWAH	オートワウ SPEED .... うねりのスピード調整 FREQ ..... トーン調整
ENHANCER	高域を強調 FREQ ..... 強調する音域を調整 DRIVE ..... 強調の度合いを調整

エフェクトタイプリスト

エフェクトカテゴリー エフェクトタイプ	特徴 可変パラメーター　＊ 下記に加え、全タイプにて“REVERB”パラメーター(リバーブのかかり具合)を調整可能
DRIVE	**音を歪ませるオーバードライブ系のエフェクトです。**
OVER DRIVE	ベーシックなオーバードライブ TYPE ..... 歪みのタイプ調整 DRIVE ..... 歪みの度合い調整
+SINGLE DELAY	オーバードライブにシングルディレイをプラス TIME ..... ディレイの長さ調整 MIX..... ディレイの音量調整
+FEEDBACK DELAY	オーバードライブにフィードバックディレイをプラス TIME ..... ディレイの長さ調整 FBLEV ..... ディレイのくり返し長さ調整
+CHORUS	オーバードライブにコーラスをプラス DEPTH.... うねりの深さ調整 MIX..... うねりのレベル調整
+PHASER	オーバードライブにフェイザーをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH.... うねりの深さ調整
+FLANGER	オーバードライブにフランジャーをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 FBLEV ..... うねりの度合い調整
+AUTOWAH	オーバードライブにオートワウをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH.... うねりの深さ調整
+TREMOLO	オーバードライブにトレモロをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH.... うねりの深さ調整
DISTORTION	**音をさらに歪ませるディストーション系のエフェクトです。**
DISTORTION	ベーシックなディストーション TYPE ..... 歪みのタイプ調整 FREQ ..... トーン調整
+SINGLE DELAY	ディストーションにシングルディレイをプラス TIME ..... ディレイの長さ調整 MIX..... ディレイの音量調整
+FEEDBACK DELAY	ディストーションにフィードバックディレイをプラス TIME ..... ディレイの長さ調整 FBLEV ..... ディレイのくり返し長さ調整
+CHORUS	ディストーションにコーラスをプラス DEPTH.... うねりの深さ調整 MIX..... うねりのレベル調整
+PHASER	ディストーションにフェイザーをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH.... うねりの深さ調整
+FLANGER	ディストーションにフランジャーをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 FBLEV ..... うねりの度合い調整
+AUTOWAH	ディストーションにオートワウをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH.... うねりの深さ調整
+TREMOLO	ディストーションにトレモロをプラス SPEED .... うねりのスピード調整 DEPTH.... うねりの深さ調整

エフェクトカテゴリー エフェクトタイプ	特徴 可変パラメーター　＊ 下記に加え、全タイプにて"REVERB"パラメーター(リバーブのかかり具合)を調整可能
ADD-ON	**このカテゴリーはサイトからダウンロードしたものと書き換えが可能です。(→37ページ)　工場出荷の状態では、音を大きく変化させる特殊効果的なエフェクトが入っています。**
SFX-TELEPHONE	電話音声のような効果 COLOR .... 明るさ調整 DARK ..... 歪みの度合い調整
SFX-RADIO	ラジオ音声のような効果 COLOR .... 明るさ調整 DRIVE ..... 歪みの度合い調整
SFX-ROBOT	ロボット音声のような効果 GATE ..... 無入力時のノイズレベル調整 －－
SFX-HELICOPTER	聞いてみてください、ヘリコプターです GATE ..... 無入力時のノイズレベル調整 SPEED .... うねりのスピード調整
SFX-INVADER	聞いてみてください、宇宙人です GATE ..... 無入力時のノイズレベル調整 COLOR .... 明るさ調整
SFX-SPACEY	聞いてみてください GATE ..... 無入力時のノイズレベル調整 FBLEV ..... ディレイのくり返し長さ調整
SFX-REVERSE	聞いてみてください GATE ..... 無入力時のノイズレベル調整 TIME ..... リバースの長さ調整
VOICE CANCEL	ステレオオーディオ入力のボーカル部分のレベルを落とします LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
MASTERING	**マスタリング(→30ページ)用のエフェクトです。**
FLAT	フラットEQ設定(リバーブのみをかけたい場合にお使いください) LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
ROCK	ロック向きEQ設定 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
POPS	ポップス向きEQ設定 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
JAZZ	ジャズ向きEQ設定 LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
LOUDNESS	低域強調と音圧補正(コンプレッサー) LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
SOFT LIMIT	自然な音圧補正(コンプレッサー) LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
HARD LIMIT	強めな音圧補正(コンプレッサー) LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整
VOICE CANCEL	ステレオオーディオ入力のボーカル部分のレベルを落とします LO ..... 低域のレベル調整 HI ..... 高域のレベル調整

エラーメッセージ

メッセージ	内　容
NO SONG	メモリーカード内にSH-01で認識できるファイルがありません。
NO CARD	メモリーカードが挿入されていません。
WRITE PROTECTED	メモリーカードにライトプロテクトシールが貼られています。
UNSUPPORTED CARD	SH-01で認識できないカードです。フォーマットされていないカードを挿入していませんか？
NO FREE MEMORY	メモリーカードの残量がないため録音できません。
FILE LIMIT REACHED	SH-01の最大ファイル数に到達しました。
NOT ENOUGH MEMORY OK?	メモリーカードの残量内では、元曲全部のミックス録音ができません。
CAN'T MIX @WAV MODE!	システム設定メニューで録音モードが"WAV"に設定されています。ミックス録音をする場合は、録音モードを"MP3"にしてください。
ERROR! PLEASE RENAME	日本語のファイル名の曲に対してはミックス録音できません。リネームでファイル名を英文に変えてください。
FILE ALREADY EXISTS	(リネーム時)同名のファイルがすでに存在しています。
CAN'T CREATE FILE	バックアップ時に作成されるファイル名 BKnnのnnが99を超えました。
CAN'T BACKUP	コンピューターから転送されたファイルはバックアップできません。
SYSTEM ERROR	システムエラーです。何かキーを押してください。電源リセットされます。 * 録音終了後にシステムエラーが発生し電源リセットした場合は、"RECOVER-FILE"という名称の救済ファイルが作成され、このファイルが選択された状態で立ち上がります(救済が可能な場合のみ)。このファイルをリネームしてお使いください。

故障かな？と思ったら

SH-01をご使用中に、「音が出ない」「録音が正常にできない」などの状況になってしまったら、本機の故障を疑う前に次の項目をチェックしてみてください。
それでも直らない場合は、お買い上げのお店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。

症　状	考えられる原因
電源が入らない	・電源アダプターは正しく接続されていますか？(→11ページ) ・乾電池は正しくセットされていますか？(→11ページ) ・乾電池が消耗していませんか？
ディスプレイが表示しない	・コントラストの設定は適当ですか？(→39ページ)
音が出ない	・**VOLUME**、**INPUT**ボリューム、**PLAY**ボリュームは上がっていますか？ ・ヘッドフォンや外部スピーカーは正しく接続されていますか？(→15ページ) ・**LINE OUT/PHONES**端子にプラグが差し込まれているときは、内蔵スピーカーから音は出ません。 ・**INTERNAL MIC**スイッチが"ON"に設定されているときは、内蔵スピーカーから音は出ません。
音が歪む	・入力レベルが大きすぎませんか？ → 入力が**INST.**端子の場合は**GAIN**スイッチを"LOW"にしてください。 → 接続している楽器やCD/MDプレーヤーなどの出力レベルを下げてください。 → **INPUT**ボリュームを下げてください。 ・エフェクトに"DRIVE"や"DISTORTION"などの歪み系エフェクトを選んでいませんか？(→20ページ)
INPUTボリュームが効かない **PANが効かない**	・エフェクトに"MASTERING"を選択している場合は、**INPUT**ボリュームおよび**PAN**設定は無効となります。
録音されていない	・ミックス録音中に電源を切ったりメモリーカードを抜いたりしませんでしたか？
アンドゥできない	・フォーマット(→34ページ)および全ファイル削除(→33ページ)はアンドゥできません。 ・有効なアンドゥも、電源を切る、もしくはメモリーカードを抜くと無効になります。 ・コンピューターとの接続を終了すると、アンドゥは無効となります。
ファイルが消えた	・SH-01とコンピューターの間では、ファイルコピーでなくファイル移動しかできません。移動後、元ファイルは消えます。
ファイルを削除したのに録音可能時間が増えない	・**[UNDO/DELETE]**キーによるファイル削除(→32ページ)操作では、アンドゥ用にファイルが残っているため録音可能時間は変わりません。ファイル削除後にSH-01の電源を切るとアンドゥ用ファイルは消去され、次回電源ON時には録音可能時間が増えています。

YAMAHA

MP3 MIXING RECORDER
SoundSketcher

ユーザーサポートのご案内
保証とアフターサービス

保管してください

ヤマハ サウンドスケッチャー SH-01取扱説明書48ページを、以下の内容に差し替えてご覧ください。

ユーザーサポートのご案内

■ 質問の受付について

ヤマハデジタル商品は、常に新技術/高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような商品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究/改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル商品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。

そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではデジタルインフォメーションセンターを開設いたしております。

お気軽にご利用頂きますようご案内申し上げます。

お問い合わせの際には、「製品名」、「製造番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」をお知らせください。
また、「接続機器(ご使用のパソコンの種類など)」、「操作の手順やそれによる結果と状態」、「入力されたデータの内容」なども詳しくお知らせください。お客様からの情報が不足している場合はご返事できない場合がございます。

ヤマハ　デジタルインフォメーションセンター

TEL：053-460-1666

受付日　　月曜日～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間　10：30～19：00
http://www.yamaha.co.jp/support/contact/syndtm.html

■ 営業窓口

国内楽器営業本部 LM営業部 企画推進室
〒108-8568　東京都港区高輪2-17-11　TEL (03) 5488-5430

LM営業部 各地区お問い合わせ先

LM東京	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL (03) 5488-5471
LM名古屋	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL (052) 201-5199
LM大阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 (心斎橋プラザビル東館)	TEL (06) 6252-5231

※名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

■ 保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

■ 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理または本体交換をいたします。
詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

■ 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

■ 持込み修理のお願い

まず取扱説明書の「故障かな？と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

■ 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お持込み窓口)

◆ 修理のご依頼/修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター
● 受付時間　月曜日～金曜日 9:00～19:00、 土曜日 9:00～17:30(祝祭日および弊社休業日を除く)
● ナビダイヤル(全国共通番号)　「市内通話料でOKナビダイヤル」**0570-012-808**
※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。
● FAX(053)463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

● 受付時間　月曜日～金曜日 9:00～17:45(祝祭日および弊社休業日を除く)
* お電話は、電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション
〒064-8543　札幌市中央区南10条西1丁目1-50ヤマハセンター内　FAX(011)512-6109

首都圏サービスセンター
〒143-0006　東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F　FAX(03)5762-2125

浜松サービスステーション
〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内　FAX(053)462-9244

名古屋サービスセンター
〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F　FAX(052)652-0043

大阪サービスセンター
〒564-0052　吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F　FAX(06)6330-5535

九州サービスステーション
〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2丁目11-4　FAX(092)472-2137

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

Memo

ヤマハ株式会社

209-02B0

© 2002 Yamaha Corporation